季刊 花伝舎
KIKAN KADENSHA
vol.04
2016/7/15

人材をつくる「頭と心の筋トレ」

行政では「文化は数値化ができない。それが文化」とよく言われます。そのために事業の成果を説明するのが難しく、新しい事業の立ち上げにはハードルがありました。それを乗り越えるために、県職員一丸となった頭と心のトレーニングを始めたのです。私が沖縄県文化観光スポーツ部長だったころの挑戦です。助成金ありきの事業ではなく、稼げる文化事業を生み出そうと、部を挙げて毎朝勉強会を開催。アイディア出しを続けました。文化行政の一種の体質改善です。そのとき、「知恵袋」を持つことも大切。職員だけでは限界があっても、人とつながり、多くのブレインの力を借りることで乗り切ってゆけるのです。

今の文化行政には人材育成が不可欠です。舞台演出家の私が、文化行政に携わることができたのも、文化事業のスキルを身につける機会を運よく得られたから。それをちゃんとした仕組みにして人材を育てようと立案したのが「アーツマネージャー育成事業」です。人のつながりがまた人を育てます。

平田大一　詩人・演出家／(公財)沖縄県文化振興会理事長

沖縄から広げる文化交流

演劇、音楽、ダンスなどをライブで楽しむには、誰かが企画して場をつくらないことには始まらない。企画から集客・本番に至るまで、会場や出演者、スタッフとの調整、そして広報・宣伝と「制作」の仕事は多岐にわたる。全国に2000館以上存在する公立文化施設でも、企画制作を行うスタッフを擁するところは限られている。

沖縄県では、文化芸術活動を支える人材を育てるため、「アーツマネージャー育成事業」を行っている。企画制作や運営実務に必要な知識を学ぶ「講座」（主に那覇で開催）と、県外の劇場や組織で数ヶ月～1年にわたる実地研修を受ける「研修派遣」だ。芸団協はその事務局を担い、過去2年間の講座参加者は200名以上、9名が研修派遣を修了した。

沖縄県北部の宜野座村で生まれ育った石山裕也さんは、県内の公立大学で観光産業を専攻し、卒業後は地元の「がらまんホール*」に就職。先輩スタッフの姿から、「自分も視野を広げたい」と研修派遣に応募し、2015年10月から翌3月まで（6ヶ月間）石川県立音楽堂*で実地研修を行った。施設の規模、スタッフの人数、事業の数…。気候からして沖縄とは全く違う。そんな環境に面食らいながらも複数の現場に携わってきた。「何かを得て帰らないと」。そんな気負いもあったという。様々な公演や音楽祭の現場に身を置き、またオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）*の東京公演に付き添った際には首都圏の劇場にも足を運んだ。研修後に痛感したのは「まだまだ勉強が足りない」悔しさ。

もっともプライベートでは、創作エイサーの実績を買われて、研修修了間際の3月に石川県立音楽堂での公演を実現させた。6月には、沖縄にOEKの縁から木管アンサンブルのメンバーを招き、がらまんホールのロビー演奏会に加え、地域の学校でのお出かけコンサートを企画実施した。「普段触れることのない方々にきっかけづくりをしたい。自分の得意なところを生かしつつ、未知の分野でもどんどん挑戦していきたい。」その想いが、企画を生みだす原動力となっている。いま、沖縄から、新たな文化交流の動きが始まっている。

ホールの説明をする石山さん。専門職員2名で、企画から広報、本番の照明や音響など裏方まで担当。

＊がらまんホール（宜野座文化センター）：沖縄県宜野座村は人口6千人弱。1996年開館。ホール（400席）での音楽、民俗芸能などの公演のほか、村民と共に企画するロビー・コンサート、那覇市から講師を招いて行うダンス教室を定期開催。

＊石川県立音楽堂：石川県金沢市は人口約46万6千人。コンサートホール（1560席）、邦楽ホール（720席）、交流ホールを運営するほか、オーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）を擁するため、音楽堂での本公演に加え、学校や地域へのアウトリーチ活動なども充実している。

芸術体験ひろば2016
花伝舎がつなぐ～こども・芸能・地域

子どもたちやご家族に多様な芸能の世界を体験してもらおうと、芸団協の会員団体の協力の下、毎年こどもの日に開催している芸術体験ひろば。憩いの場としてみんなが集まる校庭では、子どもたちの元気いっぱいな姿とともに、イベントを盛り上げようと地域の方が奮闘する姿も垣間見えた。

焼きそばやかき氷などの屋台は、例年、地元町会や地域の商店会の人々が担ってきた。その多くは淀橋第三小学校の出身者だ。この地域は年々開発が進み、高層ビルが増えて住民の入れ替わりも激しいため、町会員は減少と高齢化の一途をたどっているという。「このお祭りは、町会メンバーが一致団結する良い機会」と町会長の声。

毎回、ボランティアとして設営や運営に協力している東京青年会議所新宿地区委員会のメンバーは、「お互いに助け合えば、人手だけでなく色々な視点も加わり、できることが増える。交流を通して、地域そのものがより良い方向に進んでいければ」と期待を寄せる。

芸術体験を軸に、世代や立場を超えてさまざまな人が出会い、交流する「芸術体験ひろば」。輝いているのは子どもたちだけでない。関わり方は様々だが、プロの実演家、スタッフ、地域の大人たち。それぞれが担い手となり、新たな交流の輪を広げてゆく。芸能花伝舎が目指してきた姿の一つでもある。

12回目の今年は、演劇・音楽・伝統芸能・バレエなどの舞台芸術から読み聞かせ・クラフトワークショップ・舞台衣裳の体験まで、33の体験型プログラムを無料で実施した。当初は花伝舎に事務所を構える団体が中心だったプログラムも、年を経て、多様な事業の交流が進むにつれて変化。多種多様な芸能ジャンルを体験・鑑賞できるように工夫を凝らし、乳幼児から祖父母世代まで家族みんなで楽しめるイベントへと進化している。

バレエ、日本舞踊は着替えて本格体験！

2016年5月5日
「芸術体験ひろば2016」
会場=芸能花伝舎
主催=芸団協、新宿区
企画協力=
実演芸術関係31団体

神楽坂まち飛びフェスタで
人気のお絵かきが初登場

町会、商店会による屋台

子どもも大人もくぎづけになる
人形劇、マジック

花伝舎を行き交う人々
その2

［演出家］ 宮本亜門

東京二期会が上演するモーツァルト作曲・オペラ『フィガロの結婚』の稽古が花伝舎で行われました。演出は宮本亜門さん。今回で4度目の再演になりますが、2005年の花伝舎オープン当初から稽古のたびにここに通っています。今、改めて宮本さんに花伝舎の印象や、オペラへの想いを伺いました。

東京二期会『フィガロの結婚』の稽古風景。東京公演（東京文化会館）7/15〜18、富山公演（オーバード・ホール）9/3。

自分が自由になれる、解放感のある場所

7月の公演に向けて、花伝舎で稽古をしています。自分でカンパニーを持っていないので、稽古場に入ってから1ヶ月といった本当に限られた時間の中で仕上げなければならない。そういう時の稽古場の環境はとても大切です。ここは小学校だったんですね。ここにいる感覚がたまらないです。実は昔、学校という場所が好きになれなかった。でもここに来たら真逆で、「なんだこの解放感！」って印象でした。おかげで学校嫌いのトラウマがとれたんです（笑）。演出をする上で大切なのは、完全に自由になれる脳の解放感と、子どものような発想。それが良い作品づくりに繋がると思っているのですが、ここはそれに相応しい場所です。東京の稽古場はビルの中や地下が多いのですが、閉塞感があってちょっと苦しい。ここみたいに広場があって空が見える場所は他に知りません。隙間風も自然が身近に感じられて嬉しいぐらいです。

宮本さんにとってオペラ特有のこだわりや魅力とは――オペラの演出では、役者の感情表現を特に意識しています。歌い方を指導するのは指揮者であり、直接こう歌ってくださいとは言えません。僕の仕事は「役者の感情の変化を演出する」こと。それが魅力的な歌につながります。そのため時には動きも激しくなり、役者はとてもハードです。伝え方が間接的ではありますが、それがミュージカルと大きく違うところであり、音楽が好きでないとできない仕事でもあります。

モーツァルトの譜面は、僕にとっては最高の脚本。モーツァルトは破綻した人と言われますが、あらゆる人間の感情を全部分かっている。これだけ長い歴史を経て受け継がれてきたのは、ただクラシックという冠だけではなくて、やっぱり人を感動させてきたからだと思います。その面白さは様式の中に閉じ込めておくのではなく、今に活きたものとして伝えたい。このオペラが書かれたころはもっと人間くさく生々しかったはず。だから演出はモーツァルトが横にいるつもりでやっています。彼と相談しながら（笑）。

このごろはネットで見聞きする体験が増えました。実演の舞台でさえ、録音やマイクの使用が多くなっています。そんな時代に、オペラのような生の声を直接体験する機会なんて滅多にないわけです。最後に残された生舞台の魅力と言えるかもしれません。

TO 2020

五輪の年には文化省

2020年、「五輪の年には文化省」キャンペーン開始

芸団協はじめ16の文化芸術関係団体で構成する文化芸術推進フォーラムでは、2012年より文化省の創設を提唱し、文化芸術振興議員連盟（超党派）と研究会やシンポジウムを重ねてきました。文化の価値を中心にすえ、観光、文化産業を核としたまちづくり、世界の文化と平和に貢献する国づくりを目指すためには、「文化省」が必要です。スポーツと文化の祭典であるオリンピック・パラリンピックを契機に、文化省の創設をめざします。ぜひ、キャンペーンにご参加ください。詳しくはウェブサイトをご覧ください。　http://ac-forum.jp

［花伝舎カレンダー］ 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

7/25~8/18
「夏休みこども文化体験プログラム」

新宿区が提供する、本格的な文化芸術体験。バルーン体験、ダンス、影絵、手品、義太夫、紙切り、忍者体験、落語、雅楽。どれも100円（保険料等）。夏休みは、特別な体験をしよう！（7/8締切※定員に達しない場合は追加申込みあり）
http://www.city.shinjuku.lg.jp/kanko/bunkataiken2016.html

8/7~8 「キッズ伝統芸能体験」1-DAY

子どもも大人も、みて、きいて、やってみる。三味線、お箏、小鼓、太鼓、日本舞踊、能楽、多彩なジャンルに触れる夏の1日体験イベント。伝統芸能をギュッと凝縮してお届けします。

1-DAYいろいろ体験
8/7 会場：江東区文化センター
8/8 会場：たましんRISURUホール（立川市市民会館）

和のお稽古と発表会に挑戦してみませんか?
キッズ伝統芸能体験長期プログラム（10月～2017年3月または1月～3月）の参加者も募集中。（8/22締切）コース：謡・仕舞／狂言／三味線／篠笛／小鼓・太鼓／箏曲／尺八／日本舞踊
http://www.geidankyo.or.jp/kids-dento/

ご支援のお願い
より良い稽古環境と子どもたちに良質の芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。http://geidankyo.or.jp/support/

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

- 東京オペラシティ事務所
  〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2
  東京オペラシティタワー11階
  Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614
- 芸能花伝舎事務所
  〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30
  Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061